

公益社団法人 地盤工学会 関東支部

第3回関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会幹事会議事録(抜粋版)

1. 日 時：平成 24 年 2 月 29 日（水）09：30～11：45
2. 場 所：地盤工学会 3 階中会議室
3. 出席者：龍岡委員長，安田副委員長，王寺，大井，後藤，鈴木，土倉，安原各幹事，清木
4. 配付資料
 - 資料 0 H23 年度第 3 回関東の地盤 DB 委員会幹事会議事次第
 - 資料 1 H23 第 2 回関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会幹事会議事録
 - 資料 2-1 WG1 地盤モデル WG 活動方針（案）0228V2
 - 資料 2-2-1 WG2 20120224 データ提供依頼先リスト
 - 資料 2-2-2(1)～(2) WG2 SUPREME ボーリングデータ提供元リスト
 - 資料 2-3-1 WG3 「関東の地盤」(2013 年度版)執筆の要綱(案)
 - 資料 2-3-2 WG3 平成 23 年度関東地盤 DB 委員会 第 1 回 WG3 会議議事録 23Feb2012
 - 資料 2-3-3 WG3 「関東の地盤」(2013 年度版)執筆者 各位
 - 資料 2-4-1 WG4_フリーソフト調査_資料_20120229
 - 資料 2-4-2 WG4 ボーリングデータ品質確認内容リスト (ver3 対応版)
 - 資料 3-1 会告 4 月号 (初校) 確認
 - 資料 3-2 関東の地盤 10 年 11 月～12 年 2 月 売上と在庫
 - 資料 3-3 H23&H24 研究委 G 活動報告および予算案(関東地盤 DB)
 - 回覧資料 1 (WG1)地盤モデル作成支援システム操作説明書 V15_N
 - 回覧資料 2 (WG1)電子地盤図作成支援システム導入マニュアル(ver1.1)
 - 回覧資料 3 (WG2)東北新幹線 (大宮・宇都宮間) 白黒モード
 - 回覧資料 4 (WG2)武蔵野線 2011.12.27
 - 回覧資料 5-1 (WG3)12-1 1,2,5～9 刊行物の著作権等の帰属および取扱いに関する規程
 - 回覧資料 5-2 (WG3)12-1 3,4 表-1、表-2 刊行物の著作権等の帰属区分表 15 (20.3.18)
 - 回覧資料 5-3 (WG3)12-3 1～4 刊行物の転載等使用許諾申請に関する取扱い要領

以下項目先頭の「・」は報告および検討事項、●は決定事項。

5. 議事内容

0) 委員長あいさつ

- ・当日大雪となり、多くの委員が交通機関の混乱の影響で遅れて来られ、時間も限られていることもあり、即座に議事に入った。

1) 議事録の確認

- ・資料をもとに議事録を確認した(資料 1)。JR 武蔵野線，東北新幹線の紙媒体ボーリングデータの利用許可を龍岡委員長が対応された件、対応を WG2 の活動状況で確認することになった。

2) 各 WG の活動状況

(1) WG1(地盤モデル WG)の活動状況(地盤モデルの作成準備)

- ・大井幹事から資料をもとに説明があった。地盤モデルの作成はボーリングデータの集まり方次第であることが説明された(資料 2-1)。
- 3月～4月 モデル化地域の選定とモデル化の方針を決めるが、実施場所は市域であるので、1都7県の都市で、77都市の地盤の書籍で記載されている地域を参考にして、茨城県水戸市(安原幹事&村上先生)、栃木県宇都宮市(清木)、群馬県前橋市(土倉幹事)、埼玉県さいたま市(和田委員)、神奈川県川崎市(荏本先生)、山梨県山梨市(後藤幹事)に願う。
- ・東京都は安田副委員長の研究室で作成済みである。ただし、都心の外縁部のモデル化はボーリングデータが限られている関係から、モデル化可能な地域が限られている。
- 10m メッシュの DEM データは、国土地理院の Web サイトで県別に公開されており、Web から無償で DL が可能である。また、背景地図も同様である。これらのデータについては、各担当者が準備するものとする。ただし、DL が難しい場合、メディアの実費を負担することで CD などのメディアにデータを収めた形式で購入可能である。
- ・背景地図の Shape ファイルへの変換ソフトが必要であるが、国土地理院で公開されている変換ソフトを用いるか、市販の変換ソフトを購入することで対応できる。
- ・可視化ソフトウェアは、防災科研が開発したソフトウェア(クライアントビューア)が公開予定なので、そのソフトウェアで対応予定である。
- ・液状化ソフトウェアはどの考え方を用いるか検討中で、地震応答解析は安田副委員長が対応する。解析結果の表示に防災科研の可視化ソフトウェアをはじめ今後検討する。
- 全国電子地盤図の Viewer 関連は WG1 で対応し、ボーリングデータの Viewer 関連は WG4 で対応することが確認された。

(2) WG2 の活動状況(地盤情報収集の対応状況)

- ・長瀬幹事から資料に基づいて、地盤情報 DB のための公開用のデータについての許諾依頼状況について説明があった(資料 2-2-1)。
- WG2 では各都県に地盤情報データの公開の依頼をしたが、地盤情報データを研究用として提供して頂き、地盤モデルを作成することとは別であるが、公開の許諾の方が、研究利用の許諾の上位にあるので、XML のデータで公開の許諾ができている場合は、地盤モデルの構築が可能であろう。
- 武蔵野線、東北新幹線の報告書に収められている地盤情報データは、龍岡委員長が働きかけを行われたおかげで、公開をして頂けるようになった。ただし、位置情報、深さの標尺の記載があるものについては、数値化(XML 化)する。標尺がないものについては pdf 化して公開するに留める。作業については WG4 と連携して検討する。データの公開は pdf 化し、地盤モデル作成のためには XML 化する。
- 前橋市(土倉幹事)、甲府市(後藤幹事)、水戸市(安原幹事)、宇都宮市(清木)は、地盤モデル構築に必要なデータを全国電子地盤図の委員会の許諾依頼書をベースに各自書類を作成し、依頼作業を行う。

- ・地盤情報データを DB 上で公開する場合は、関東支部から依頼状で対応する。
- ・各都県から地盤情報データの提供許諾を頂いている場合でも、2 種類のデータ形式(XML、pdf)の何れで出して頂けるか再度確認する。→数値データでの依頼をしているので恐らく XML 形式での提供となる。
- ・4 月中に DB で公開するデータとしての受け取りを完了させる予定。各都県の担当者と受け取り方法などを相談する。

(3) WG3 の活動状況(ワークショップの開催および本文の執筆準備状況)

- ・地盤モデルの作成と書籍の執筆内容との関連を検討する件、龍岡委員長から指示をうけて、目次との関連を説明した(資料 2-3-1)。
- 関東全域の章は、関東ローム、地質的な成り立ち、火山灰台地、沖積低地などを区別してまとめる。
- 各都県の内容には地盤工学的な性質について記載をお願いするために、例として、書籍関東の地盤(2010 年度版)「千葉県の地盤」をひな形にして執筆をお願い致します。
- 4/27 および 5/24 のワークショップでは、近隣の県の担当者の出席を促すために、龍岡先生(地盤情報の意義、地盤の成り立ち、東日本大震災地盤災害全般 4/27, 5/24)に 15 分程度。関東地域の湾岸域の被災状況と対策(安田先生 4/27)を 30 分程度、茨城県および関東の沿岸域の被災状況および対策(安原先生 5/24)を 30 分程度で講演をお願いする(資料 2-3-2, 資料 3-1)。
- 4/27 「はじめに」は、龍岡委員長にご講演を連続して 20 分程度お願いする。基調講演は安田先生(30 分)
- 各ワークショップに参加して頂けるように。各自治体に声をかける。連絡先は大井幹事に情報を頂き、支部事務局から会告案内をして頂く。
- 千葉県、浦安市、習志野市、船橋市、川崎市の担当者にもワークショップの案内を出す。

(4) WG4 の活動状況(地盤情報 DB および地震応答解析ソフトへの対応状況)

- ・王寺幹事から無償ソフトを試用した結果が報告された。柱状図の位置情報、柱状図の表示システムなどを確かめられた。また、フリーソフトの活用例が報告された。
- ・地盤情報データベースの改良と構築は基本的に、テクノαをお願いする。
- ・地盤情報データベースの表示機能を 160 万円で実施する。
- 2010 年度版で利用したマニュアルの改定、規定の更新を行う。
- ・各都県の地盤情報データの公開許諾、手書き版データの電子化については、承諾を得ている。
- 手書き(紙媒体)のデータは、原則として電子化(pdf 化)を行う。
- 武蔵野線、鉄道運輸機構のデータの電子化を WG2、WG4 で連携して実施する。
- ・XML を表示す際、表示ソフト内に発注機関が示される場合があるので扱いに気をつける。
- WG4 と WG2 で、データの収集について、連携して、4 月末までに実施する。
- 5 月～6 月に地盤情報データの収集を終了できるように進める。
- pdf で地盤情報データを公開している自治体へは、XML による情報公開を再度お願いする。

(5) WG 間の調整事項

個々のWGの活動報告時に、調整を行った。

3) その他

- ・該当なし

次回：第4回幹事会：4/27(金) 10:00～12:00 地盤工学会3階小会議室

以上